

宮城民医連職員の被災状況と5月からの取組み

3月11日発生した東日本大震災は、津波による甚大な被害と合わせて福島第一原子力発電所の事故による放射能被害も重なり、まさにわが国が経験したことのない大災害となりました。

震災直後から全国の仲間による支援活動が展開され、1か月経過した段階で1500人以上のご支援をいただきました。4月に入り救命救急的な支援から中長期的な復興支援を展望した支援活動に切り替えていく必要があります。宮城県・民医連震災対策本部と宮城民医連では全国からの物心両面での多大なる支援活動に感謝しながら5月からの復興支援の取組みについての基本方向を確認しました。

- ① 坂総合病院への診療支援（5月以降は医師のみとし、支援内容は内科外来とER）
- ② 長町・松島の地域訪問は4月をもって終了し、独自に友の会とともに地域再生を目指します。
- ③ 避難所への医療チームの派遣（塩釜市、多賀城市、宮城野の里・岡田小）
- ④ 被害の大きい診療圏以外の地域行動（金・土作戦） 宮城民医連加盟事業所と共同組織から参加を組織し全国の支援も受ける。
- ⑤ 心のケアサポート ⑥ 避難所を中心にした衛生問題に取り組む ⑦ 地域の環境問題（粉塵・化学物質・アスベストの測定）等

宮城民医連職員の被災状況

4月12日現在（宮城厚生協会以外は回収率100%）

	職員死亡	職員怪我	家族死亡行方不明	家屋甚大な被害	車両被害	備考
宮城厚生協会	1	9	22	49		回収率48%
松島医療生協	3	4	2	6	12	利用者死亡12人
みやぎ県南医療生協			3		1	
宮城厚生福祉会			3	2		
みやぎ保健企画			2			
宮城民医連事業協			2	3		
県連事務局			1	1		
合計	4	13	33	61	13	



深沼海水浴場では海に向かって祈る人が



深沼橋付近では遺体の捜索が続けられている



深沼海岸付近の被災状況

深沼海岸近くから遠く蔵王方面を望む

砂漠のような大地から水仙の花が咲いた